

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

神奈川大学 清水俊裕ゼミ チームヨっちゃんパート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ 社会保障について

サブテーマ 社会保障制度の再検討

趣意文

社会保障とは本来、所得移転によって生活上の問題についての貧困を予防し、また貧困者に対して、社会的サービスを給付し救うべきものである。しかし今日の社会保障制度では、貧困者に対して、しかるべき社会的サービスを十分に給付しきれていない。そこで、社会保障制度について再検討が必要だと考える。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

専修 大学 中野英夫 ゼミ 中野英夫 B パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ

年金について

サブテーマ

日本の年金制度の課題と今後の方向性

趣意文

現在、日本では人口減少・少子高齢化といった問題が深刻化しており、今後年金制度が崩壊し高齢者福祉を維持できなくなるのではないかといった議論もあがっている。また、先日金融庁が「老後の金融資産として約 2000 万円必要」という報告書を発表し、大きな話題となった。今の時期から将来の金融資産確保について考える必要性が感じられる。

私たちのゼミナールでは、日本の年金制度の仕組みや現状、課題などの研究を行っている。そして、課題を踏まえた上で今後の年金制度のあり方について考察していく。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 佐藤拓也 ゼミ 佐藤拓也 B パート

部門番号

13

部門名

社会保障論

テーマ 日本の教育格差について

サブテーマ 奨学金・教育の無償化・教育環境

趣意文

現在の日本では、各家庭の経済状況がその子供の学力に結びついていると感じることが多々あります。教育格差はそのまま学歴格差となり、学歴社会である現代では所得格差につながります。それがまた教育格差につながり…と繰り返されることで経済的弱者が固定化されていると考えました。そこに問題意識を持ち、焦点を教育機会の平等にあて研究することにしました。

学力に影響を及ぼす要素を調査し、平等を妨げる原因として家庭環境の格差、家庭の経済状況の格差の2つに着目しました。奨学金や教育の無償化の批判も加えることで、教育機会の平等化、強いては弱者を流動化するための対策にアプローチしていきました。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 宮本悟 ゼミ **みやもとぜみ A** パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ

若者の労働問題

サブテーマ

「ニート」問題とブラック企業問題を中心に

趣意文

私たちは、若者の労働問題に関心があり、特にいわゆる「ニート」問題とブラック企業問題に焦点を絞って研究を進めている。

2004年ににわかに社会的注目を集めることになった「ニート」には、学術的な定義が存在するわけではない。しかしながら、政府はその類似概念である若年無業者（15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者）の調査を行っており、例えば「労働力調査（2018年版）」によれば2018年は約53万人もの規模であったとされる。

またブラック企業については、「①労働者に対し極端な長時間労働やノルマを課す、②賃金不払残業やパワーハラスメントが横行するなど企業全体のコンプライアンス意識が低い、③このような状況下で労働者に対し過度の選別を行う」、などの一般的特徴を有する（厚生労働省「労働条件に関する総合サイト 確かめよう労働条件」）。その犠牲者の多くは、社会経験の乏しい若者であると考えられる。

以上のような問題意識の下、具体的には下記のような各論点について討論を進めたい。

- ・「ニート」の現状（原因と対応策の検討を含めて）
 - ・ブラック企業における長時間労働
- ・「体育会系経済」の実態

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学

宮本 悟

ゼミ

宮本ゼミ C パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ

日本における教育保障

サブテーマ

生活保護の在り方も視野に入れて

趣意文

現代の日本における教育保障の問題を、私たち大学生の視点からみていく。その際、生活保護の在り方も視野に入れて検討を進めたい。

現代の日本における教育保障は、教育は家族の責任であるという教育観、教育費の親負担主義という教育費負担の家族主義という考えを基に政策が進められている。だからこそ現状として、高等教育に対する需要拡大に反して、低給付奨学金かつ高授業料という実態がみられる。国としては、教育費の公的負担の根拠を憲法第 26 条・教育基本法第 4 条に、学生支援の義務は教育基本法第 4 条第 3 項に定めているが、その責務を果たしているのだろうか。

また現在、日本における生活保護制度に内包されている諸給付の中に教育扶助が存在しているが、どこまでを扶助の対象にするか、という問題が挙げられる。文部科学省 HP によると、「意欲ある子供たちの進学を支援するため、授業料・入学金の減免と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充により、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校を無償化する方針」(令和元年 6 月 27 日閲覧)が決定された。今後、この政府方針は教育扶助にどのような影響を及ぼすのであろうか。

以上のような諸問題を中心に、議論を深めていきたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 宮本悟 ゼミ 宮本悟ゼミ 141 パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ 社会保障について

サブテーマ 年金と生活保護の関係

趣意文

現在、今後の年金制度に対しての不安が高まっている。納付金の低下による財源不足や年金の受給年齢の引き上げにより、将来生活に十分な年金を受給できるかが不透明である。そのほかにも、女性の年金受給額が男性に比べて少ないといった問題や年金の受給額が少ないことで、生活保護の受給者が増え、さらには生活保護の受給額のほうが国民年金の受給額よりも多いといった問題もある。

このような問題点を年金の歴史や現状を、女性の労働環境などの観点から研究し、解決策を見出していく。

具台的には以下のような問題について考えていきたい。

- ・年金の給付額の低下により、生活保護受給者が増えている
- ・女性の年金受給額が男性に比べて少ない
- ・若者の納付率の低下

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

國學院大学

根岸ゼミ

社会保障パート

13

部門番号

部門名 社会保障論

テーマ 公的年金の持続可能性と役割の変化

サブテーマ 公的年金を補う老後の収入源

趣意文

この論文の目的は、老後に安定的な生活を送るために、定年後の収入源として公的年金制度をベースとしつつ、不足分に対して補足的な対策を検討することである。具体的には iDeCo や NISA による資産形成や、定年後の雇用環境の整備について検討することである。

昨今、金融審議会の「高齢社会における資産形成・管理」をはじめとして、老後の生活について活発に議論が行われている。厚生労働省が5年ごとに行っている財政検証によると、公的年金の持続可能性は確保されているものの、今後公的年金の給付水準は低下することが課題として挙げられている。実際に、総務省の「全国消費実態調査」によれば、老後には収支と支出で不足額5万円が毎月発生し、30年で約2,000万円の貯蓄の取り崩しが必要になることが示唆されている。

以上のことから、老後における公的年金の役割は時代と共に変化すると予測されるため、それを支える形での自助努力による資産形成や老後の就業環境の整備が必要だと考える。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

法政

大学

藤澤

ゼミ

4 パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ

欧州と日本の社会保障制度の比較

サブテーマ

日本の社会保障制度は改善できるか

趣意文

近頃、ニュースで年金についてよく目にする。少子高齢化社会において国民年金の支給は難しいとされており、私たちの世代は年金を貰えない可能性もあると言われてい
る。私たちのグループでは年金を含んだ社会保障制度を欧州の社会保障制度を比較しな
がら研究している。

そして、欧州と比べて日本の社会保障制度はどこか優れているのか。また、どこが劣
っているのかを考え、それに対しての改善点、解決策について討論したいと考えてい
る。

さらに将来、年金制度がどうなるのか、私たちの世代が最低限の生活を営むための金
額が支給されるのには、何が必要かを討論したいと考える。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

神奈川 大学 玉井 義浩 ゼミ C パート

13

部門番号

部門名

社会保障論

テーマ 誰もが自分らしく生きられる社会に向けて

サブテーマ 経済統計はマイノリティーの幸福を反映するか？

趣意文

性別や親の所得水準などは自分で選べない。このような、本人の努力でどうにもならない要因による不平等や差別は、あってはならない。人類の歴史が「男は、こうあるべき」「女は、こうあるべき」という伝統的価値観を否定し、男女共同参画、男女同権・子どもの権利や性的マイノリティーの権利の尊重へ動いているのは上記の理由による。

一方、未だに伝統的価値観に苦しめられる人々も多い。特に発展途上国には child labor や女兒への婚姻強制の問題がある。先進国では上記の酷い事例はほぼ存在しないと思われ、男女同権、女性の労働力参加は浸透しつつあるが、日本の現状～女性管理職の比率が異様に低く、LGBT 対するヘイト論文を平然と公表する国会議員がおり、児童虐待が後を絶たない～を見れば、一人あたり GDP が個々人の生き方の選択の自由度も含めた本来の幸福の水準の指標としては不十分であることがわかる。

国民の経済厚生を測るといふ、経済統計の目的に照らせば、本来は生き方の選択の自由度も経済指標に組み入れられるべきである。我々はこの研究において、「自分らしく生きられる幸福」を経済指標にどのように織り込むことができるかを検討する。